

学校法人滋慶学園 東京スポーツ・レクリエーション専門学校 学校関係者評価委員会 自己点検・自己評価 評価表

【令和8年6月1日実施】

令和7年度自己点検自己評価(令和7年4月1日～令和8年3月31 日)による

自己点検・評価項目	自己評価	自己点検・評価項目 総括	特記事項(特徴・特色・特殊な事情等)	評 価	学校関係者評価委員よりの御意見
	優れている…3 適切…2 改善が必要…1			優れている…3 適切…2 改善が必要…1	
基準1 教育理念・目的・目標と職業教育のマネジメント					
小項目1-1 教育理念、目的及び目標の設定等			3	■建学の理念(実学教育・人間教育・国際教育)に基づき、各学科ごとに育成目的・教育目標が中期計画・年度授業計画が明確化されています。また学生・保護者に対しては学生便覧・ホームページで公開して公開して理解を得られる努力もしています。 ■学生自身の理解度や共感度を把握できる仕組みを構築すると良い。 ■中期計画を策定し、中長期的な視点で学校運営を行っている点は高く評価できる。教則員や学生が安心して活動ができる環境づくりに繋がっていると感じる。	
1-1-1 教育理念等を踏まえ、当該専門学校として、目的及び目標を設定し、学科ごとに育成する人材像を明確にしていること。	3	建学の理念に基づき、中期計画および単年度事業計画の策定過程で教育目的・目標を設定している。各学科・コースでは、養成目的や教育目標、育成人材像を明確にし、教育指導要領等に示している。 また、学校全体の教育理念を踏まえて各学科の目的・目標を設定し、入学者受入れ、教育課程、卒業認定の各方針を一体的に運用している。これらの内容は、学生便覧やホームページ等を通じて広く公表している。			教育理念・目的から各学科の養成目的・教育目標まで体系的に整理され、これらに基づく教育プロセスが一貫して運用されている点は長所である。 入学時には学生便覧や教育指導要領を用いた導入教育を行い、オープンキャンパスでは高校生や保護者へ学校説明を実施している。 一方で、理念や目的に対する学生の理解や自覚には差が見られ、学修との結び付きをより意識させる取組が課題である。
小項目1-2 職業教育のマネジメント体制の整備			3	■職業教育の内容改善のために教育課程編成委員会の提言や、産学連携の業界からの意見を取り入れて教育の企画・設計・運用から改善まで行っています。同時にピラピスの導入で在学中に資格を取得できる教育は高く評価できます。 ■委員会での講義内容や改善成果を全職員共有することで全体の教育力向上につながる。 ■ピラティスなど業界ニーズに即した授業を導入している点は高く評価できる。	
1-2-1 職業教育を推進(教育の企画・設計・運用、検証及び改善・向上等)するために必要なマネジメント体制を整備し、有効に機能していること。	3	教務部を中心とした教育実施体制を構築し、教育課程編成委員会や就職・業界関連部署が連携し、教育の企画・設計・運用から検証・改善までを組織的に行っている。 これにより職業教育のマネジメント体制を構築し機能している。			教育課程編成委員会に業界関係者を参画させ、職業教育の内容改善に外部意見を反映している点は長所である。 教育方針は一貫しているが学科特性に合わせ年間計画を立てている。 一方、教育の検証結果や改善方針について、教職員全体への共有方法には、更なる工夫の余地がある。
基準2 教育課程、教育の実施、学修成果					
小項目2-1 教育課程の編成と授業科目			3	■教育課程編成委員会の意見さらに教職員や産業界の意見を踏まえて、授業内容の検討や見直しをしながら、社会や業界の激しい変化に対応する体制が整っています。 外国人留学生に対しては日本でのビジネスマナーや言葉遣いの指導がなされていますが、生活習慣や時間の厳守・宗教的な習慣の違いもカリキュラムに入れるべきだと思います。 ■外国人留学生に対して日本の社会生活やビジネスマナーを学ぶ授業があることは大変良いことだと思う。 ■業界動向を継続的に分析し教育内容のアップデートを図ることを期待する。 ■留学生が安心して学校生活を送れるよう日本語学校に連携した支援体制が整備されている点は、高く評価できる。	
2-1-1 学校の目的・目標及び育成人材像を実現するための教育課程編成・実施方針を定め、方針に基づき、必要な授業科目を体系的・段階的に配置した教育課程を編成していること。	3	卒業認定方針を踏まえ、学校の目的・目標および育成人材像の実現に向けて教育課程編成・実施方針を策定している。方針に基づき、基礎から専門、実践へと段階的に授業科目を配置している。教育カリキュラム策定スケジュールに合わせ、教育課程編成委員会を開催し、体系的な教育課程を編成している。			教育課程編成・実施方針に基づき、基礎から専門、実践へと系統性・暖海性を意識した授業科目配置がなされている点は長所である。一方、業種的に社会や業界の変化が速く、それを踏まえた教育課程の見直しについては、より継続的な検証が必要である。
2-1-2 教育課程編成のために、教職員及び企業等の役職員その他の委員により組織する教育課程編成委員会等を設置し、年2回以上開催していること。 【職業実践専門課程】	3	職業実践専門課程において、教職員および業界・地域社会の関係者から構成される教育課程編成委員会を設置している。委員会は年2回開催し、産業界の意見を踏まえて教育課程や授業内容の検討・見直しを行っている。			スポーツ業界の実務的な視点を教育課程に反映できる体制が整備されており、委員会が継続的に開催されている点は長所である。一方、委員会での検討内容や改善結果を、教職員全体で共有する方法については、さらなる工夫の余地がある。
2-1-3 外国人留学生に対して、日本国内に就職する際に必要となる日本社会の理解の促進に資する授業科目を10単位以上開設していること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	スポーツ関連業界では礼儀を重んじる傾向が強く、日本でのビジネスマナーや敬語等、留学生が学ぶ範囲は専門知識だけに留まらない。日本国内での就職に必要な日本社会理解を目的とした授業科目を開設している。 これらの科目は、日本の社会制度、労働慣行、ビジネスマナー等を中心に、文部科学省の定める要件に基づき編成している。			日本社会や職業生活に関する体系的な授業を十分な時間数で提供している点は長所であり、留学生の就職準備に有効である。一方、学生の日本語能力や理解度には個人差があるため、内容の定着をより確実にする工夫が課題である。

小項目2-2 教育課程の実施				3	■授業科目ごとにシラバスに基づく成績評価と授業の運営が実施されています。実習・実技・実験と演習も産学連携企業団との協力で充実しています。 特に産学連携の企業へのメディカルキャンプの参加は、学生にとって授業の目的・自身の将来像を想像できる貴重な経験の場ですから高い評価をつけたいと思います。 ただ工夫が必要だと思事は、企業でのメディカルキャンプで、規模の大きい団体と比較的規模が小さな企業では経験する(質・量・人間関係に大きな差)があります。大きな企業だと一面だけの経験になってしまいながら、自分では大きな仕事の経験ができたと思ひ込んでしまいます。逆に小さな規模の企業だと企画や運営・接客や負傷の手当てもトータルの経験もすることが出来るのです。評価に差が出ないようにお願いします。 ■今後も社会や業界の変化に対応した教育内容の継続的な見直しを期待する。 ■実習の受け入れ先により教育内容や経験の充実度に差が生じる点は、さらなる改善の余地があると感じる。
2-2-1 授業科目内容に応じ、講義、演習、実験、実習又は実技等、適切な授業形態で教育が実施され、かつ、適切な教材が用いられるとともに、学校が定めた基準に基づき成績評価を行っていること。		各授業科目の内容や到達目標に応じて、講義・演習・実習など適切な授業形態を採用している。全科目でシラバスを作成し、授業内容や評価基準、教材を明示するとともに、履修指導や学修相談を行い、公正かつ厳格な成績評価を実施している。	シラバスに基づく授業運営と成績評価が定着しており、学生に対する説明責任が果たされている点は長所である。一方、予習・復習の定着度や、成績評価に対する学生理解をさらに高める必要がある。		
2-2-2 企業等と連携した、実習、実技、実験又は演習等(以下「実習・演習等」という)の授業を行っていること。また、教育目標の達成に必要な企業等と連携した実習・演習等の単位時間または単位数の総授業時数に占める割合を具体的に設定していること。 【職業実践専門課程】		教育課程に企業等と連携した実習科目を配置し、実務家教員を中心に、業界で求められる実践的な知識・技能の修得を図っている。実習内容や到達目標は事前に明示し、実習前後の指導を通じて学修成果の定着を図っている。	企業等と連携した実習を通じて、学生が職業観や実務理解を深められる点は長所である。また、連携実習を教育課程上に明確に位置付け、協力機関と実習目標を共有している点も評価できる。一方で、実習内容や学生の経験、実習先の特性により成果に差が生じる場合があるため、評価の考え方や実習成果をより丁寧に共有し、学修効果を均質に高める工夫が課題である。	3	
小項目2-3 単位・卒業認定				3	■単位の認定は学則・履修規定に基づいて明確に単位の認定・卒業単位の認定がなされており何等の問題はありません。 またその認定会議も学校長を中心に、学科関係者を含めた卒業進級判定会議で判断されていますから公平な評価がされています。 ■公正に運用されていることを評価する。 ■学生一人ひとりが制度を理解できるよう、丁寧な取り組みの継続を期待したい。
2-3-1 学校の目的・目標及び育成する人材像を実現するために必要な卒業認定方針(資格・免許等を含む修得させる職業能力を含む)を学科・コースごとに定め、当該方針に基づき卒業を認定していること。	3	学則および履修規程等に基づき、単位認定および卒業認定の基準を明確に定めている。成績評価は各授業科目の評価基準に沿って行い、所定の単位修得状況を確認した上で、組織的な手続きを経て卒業認定を実施している。	単位認定および卒業認定の基準が明確に定められ、規程に基づき公正に運用されている点は長所である。一方、学生に対する制度理解については、内容の周知や理解度に差が生じる場合があり、より丁寧な説明が課題である。		
小項目2-4 学修成果目標の達成状況				3	■学生の進路目標を明確に定めて、キャリアセンターと担任が一人一人の適正に応じた進路指導がなされています。 さらに学生は学科・コース別に目標とする職業能力を設定し、資格取得実績や学修成果を把握していますから、自分の長所・短所を理解することが可能です。 ただし学生の能力や性格には個人差がありますから、目標の達成状況にも差がでます。この点の改善が望まれます。 ■学生の進路に関して担任やキャリアセンターがたびたび個人面談を行い進路指導している状況は素晴らしいと思う。 ■卒業後の定着状況やキャリア形成の実態についても把握し教育改善に活用してほしい。 ■就職希望者の就職率100%は素晴らしい。今後は就職後の定着状況についても継続的に把握し、さらなる教育の質向上につなげていただきたい。
2-4-1 卒業認定方針に明示した学科・コースごとの職業能力(資格・免許等の取得、必要な知識や技術、技能、職務遂行能力の修得など含む。)の学生の修得状況を把握し、評価していること。	3	学科・コースごとに必要な職業能力や資格取得目標を明確に定めている。資格取得状況や授業成績、実習評価等を通じて学生の修得状況を把握し、職業能力の達成状況を総合的に評価している。	学科・コース別に目標とする職業能力を設定し、資格取得実績や学修成果を把握している点は長所である。一方、資格や能力分野ごとに達成度の差が生じる場合があり、学生個々の到達状況をより丁寧に把握することが課題である。		
2-4-2 学生の進路に関する目標を定め、その目標を達成していること。	3	学科・コースごとに就職・進学に関する進路目標を設定し、キャリアセンターと担任教員が連携して支援を行っている。就職率や進路内訳等を指標に学生の達成状況を把握し、組織的に評価している。	進路目標を明確に定め、就職・進学状況を定量的に把握している点は長所である。また、キャリアセンターと担任教員が連携し、学生一人ひとりの状況に応じた進路指導を行い、卒業生、企業、在学生の意見を踏まえて教育成果を検証している。一方で、進路の多様化により学生の進路意識や目標の捉え方には差があり、早期からの継続的な支援や進路目標の共有方法が課題である。加えて、卒業後のキャリア形成を長期的に把握する方法や、収集した情報を適切に整理・活用する工夫が求められる。		

基準3 学生の受入れ、学生支援				
小項目3-1 学生募集及び入学者の選抜、収容定員の管理			3	■学生募集は私学経営の最も大切な根幹です。学則で定められた入学定員と収容定員に基づいた入学者の受け入れ、それに伴う入学者選考基準・方法を明確にし公平に入学試験が実施されています。 18歳人口の激減と他校との競争で、定員の確保ができない大学・短期大学・専門学校が多い中で定員の280名を確保していることは、大きな評価です。 ただ午後部に関しては、授業と資格取得の方法も含めた改善が必要です。 ■高校生の進路選択の時期は早まっているように感じる。そのため学校側の体制も年々早めに準備している点は良いと思う。また入学者数もほぼ定員に達しており次年度入ってくる人たちに安心感を与えている。 ■適切な募集と選考が行われていることを評価する。 ■入学希望者の選考基準についてすべての入学希望者が理解できるよう、わかりやすい情報提供の継続を期待したい。
3-1-1 入学者の受入方針、入学選考基準、方法を定め、入学希望者に明示し、入学者の選考を公正に行い、可否を決定していること。	3	卒業認定方針および教育課程編成・実施方針を踏まえて入学者受入方針を定め、求める学生像や入学者に求める水準を募集要項等に明示している。入学選考の方法や手続についても事前に公表し、書類審査や面接等を組み合わせた選考を実施している。選考は入学者受入方針に基づき、複数の教職員が関与する体制のもと、所定の基準に沿って適切かつ公正に可否を決定している。		
3-1-2 学生の受入れは、入学定員に基づき適正に行っていること。	3	学科・コースごとに定めた入学定員および収容定員に基づき、入学者数および在籍学生数を把握・管理している。募集状況や在籍状況は定期的に確認し、関係部署間で共有することで、適正な学生受入れに努めている。高校生の進路選択早期化に伴い早い段階でおおよその入学希望者数は把握できる。		
小項目3-2 多様な学生に対する修学支援			3	■現在の総ての学校は法律の改正で(合理的配慮)を入試説明会やオープンキャンパス、そして実際の入試さらに入学を許可すれば学生が卒業するまで実施する必要がある。す。 国公立の学校であれば校舎の増改築(エレベーターの設置・階段の段差の改善や手すりの設置・トイレや更衣室の新設等)の経費の負担。また障がい者を指導育成する人材の採用に伴う人件費の増加も公の教育機関としては可能でしょうが、私立学校では財政的に負担出来ないものもありますから、教職員の共通認識として何が可能で・何はダメなのかを明確にしておくべきです。 外国人の留学生も、授業や実習・実技では問題が出ないことでも、生活習慣・時間の管理・宗教的な行為では予想だになかったことが、大問題となり帰国や退学に発展する場合がありますから、十分な配慮を願います。 ■今後留学生や障害がある学生は増えていくと思うが、担任や学生サービスとの連携により細部にわたり支援が行き届いているように思う。 ■状況に応じた支援制度が整備されており、安心して学べる環境づくりができています。 ■キャリアセンターと担任が密に連携しながら学生に寄り添った就学支援を行っている点は評価できる。
3-2-1 適切な体制を構築し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など、多様な学生の修学に関する支援を行っていること。	3	担任教員を中心に関係部署が連携し、障がいのある学生、海外からの留学生、社会人経験者など多様な学生の修学状況を把握している。個々の状況に応じた相談対応や学修上の配慮を行い、修学継続を支援する体制を整備している。必要に応じて合理的配慮を行っている。		
3-2-2 特に海外からの留学生について適正な在籍管理、進路(就職)指導を行うとともに、日本人学生との交流の機会が確保されていること。 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	外国人留学生について、担任教員や関係部署が連携し、出欠・在籍状況等の適正な管理を行っている。進路指導については、キャリアセンターと連携し、国内就職に向けた支援を実施している。スポーツ業界では、外国人のニーズもあるが、一定基準以上の日本語能力が必要である。		
3-2-3 学生の経済的側面に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	奨学金制度や学費に関する支援について、担当部署および担任が連携して対応している。制度内容は学生便覧やガイダンス等を通じて周知するとともに、個別相談に応じ、学生が安心して就学を継続できる体制を整備している。		

小項目3-3 学生生活に関する支援				3	■学生に対する支援で、保健衛生面では定期健診の実施とその後のフォローをしっかりと行っています。滋慶学園グループの慶生会クリニックでの診断や治療は他校には出来ない体制だと評価します。 また成績や出欠席の状況を早期に把握して、担任による相談や学生相談室でカウンセラーを配置した個別指導と相談は学生の信頼と保護者に安心感を与えるシステムです。この成果は数年間で退学者の割合が5, 1%から4, 6%に減少して昨年度には3, 5%まで減少させた実績として残っています。退学者が多数出る学校との違いは高く評価すべきことです。 ■全ての面で支援制度が整備されていることを評価する。 ■下肢障害を持つ学生に、学校・クラスメイトが協力しながら学習環境も整えている点は大変素晴らしい取り組みである。今後もこのような事例が共有され同じような境遇の方々にとって希望となることを期待したい。
3-3-1 カウンセラーの配置、相談室の設置など、学生の相談に対応するための環境整備を行い、適切に運営していること。		担任による相談対応に加え、法人の学生相談室を活用した学生相談体制を整備している。相談体制については、ガイダンスや配布資料等を通じて学生に周知し、学生生活や心身の不安に対応している。	相談体制を活用し、学生の状況に応じた相談対応を行っている点は長所である。一方、相談利用に対する心理的な抵抗から、制度が十分に活用されていない場合があり、利用促進が課題である。		
3-3-2 留年者、退学希望者など学習の継続に困難な問題を抱える学生に対し適切な対応を行っていること。	3	成績や出席状況等から留年・退学の可能性がある学生を早期に把握し、担任を中心に教務、学生支援等の関係部署が連携して個別面談や支援を行っている。	複数部署が連携し、学生の状況に応じた柔軟な対応が行われている点は長所であるが、学生本人の心理的負担により相談が遅れる場合が課題である。		
3-3-3 学校保健安全法に基づく学校保健計画を策定し、学生の心身の健康管理体制を整備し、適切に運用していること。	3	学校保健安全法に基づき学校保健計画を策定し、学生の健康管理体制を整備している。定期健康診断を実施し、結果に応じたフォローを行うとともに、保健指導や啓発を通じて学生の心身の健康維持に努めている。	定期健康診断や事後フォローを通じた健康管理体制が整備され、学生の健康把握が行われている。一方、学生自身の健康意識やセルフケアへの理解には個人差があり、継続的な啓発が課題である。		
3-3-4 学生のキャリア支援、就職支援に対する支援体制を整備し、適切に周知、運用していること。	3	キャリアセンターと担任教員が連携し、就職ガイダンスや個別相談を通じて学生へ情報提供を行い、就職活動を組織的に支援する体制を整備・運用している。	キャリアセンターを中心とした支援体制により、学生が必要な情報を得やすい点は長所である。情報活用の度合いには学生間で差が生じることが課題である。		
小項目3-4 学生の自主的な学習等の促進に対する支援				3	■教職員・担任が出席状況や学習状況を把握して、個別指導や補修を積極的に行っています。その結果学習方法をアドバイスされ面談を続けた学生の意欲の向上がみられます。学生の課外活動や部活動も盛んで、地域社会との関係も濃密になる一方で各種の大会で活躍し大いなる成果をあげていることは、学生にも学校にとっても大きな自信になっています。これは大きな評価だと思います。 ■学生の主体性を尊重し、自主的な学習や活動を支援する環境が整備されている。 ■個別指導や学生支援の充実が退学者の減少という成果に繋がっている点は高く評価できる。
3-4-1 学生の学力や学習状況を把握し、入学前教育や補習授業を行うなど学習支援に取り組んでいること。学生の円滑な学習に向け、シラバスの活用による学習成果の向上や自主的な学習に関する適切な支援を行っていること。	3	担任は成績や出席状況等を基に学生一人ひとりの学力・学修状況を把握し、シラバスに基づいた授業運営を行っている。あわせて、個別面談や補習、学習方法や自主学習に関する助言を通じて、円滑な学修を支援している。さらに、留年や休学に至る可能性のある学生については早期に状況を把握し、学修状況や生活面を確認した上で、修学継続に向けた支援を行っている。	担任教員が成績や出席状況等を基に学生一人ひとりの学習状況を把握し、個別指導や助言、補習などの支援を行っている点は長所である。また、成績不振や留年・休学に至る前段階で早期対応できる体制も整っている。一方で、学生の課題は学力面に限らず、学習意欲や生活環境、心理的要因など多岐にわたるため、継続的かつ多面的な把握と支援の工夫が課題である。		
3-4-2 正規の授業時間以外に行われる、課外活動など学生の自主的な活動を充実させるため、適切に支援していること。	3	部活動や課外活動では、顧問教職員が管理・指導を行い、活動環境や参加機会を整えることで、学生の主体的な取り組みを支援している。特にサッカー部やバスケットボール部が成果を上げているほか、近隣のグループ校と合同でインカレサークルとしての活動も行っている。 また、学生が自主的に参加するボランティア活動についても支援しており、地域行事やスポーツ関連活動を中心に、教職員が内容確認や引率を行い、安心して参加できる実践的な学びの機会として位置付けている。	教職員の関与により、学生が安心して部活動や課外活動、ボランティア活動に参加できる環境が整備されている点は長所である。部活動や課外活動を通じて学生の主体性を育むとともに、地域と関わるボランティア活動では実践的な経験を積む機会も提供している。一方で、学修との両立や活動内容の継続性、参加意欲には学生間で差が見られるため、活動状況を的確に把握し、負担軽減や参加促進につながる工夫が課題である。		

基準4 教員・教育実施組織					
小項目4-1 教員の配置、募集、採用				3	■専門学校設置法に基づいて、必要な資格・要件を備えた教員を採用し、教育課程に沿った授業実施のための教員研修・授業アンケートの実施で質の向上をはかっています。 年二回の講師面談も授業改善や指導の見直しに役に立っていますから評価すべきことです。 ■年二回の授業アンケートにより学生から見た講師の方々への評価がわかり、その後の講師面談にもそれが生かされているのは良いことだと思う。 ■継続的な改善が図られている。 ■アンケートを実施し学生の声を積極的に反映する姿勢は高く評価できる。
4-1-1 教育課程を実施するのに必要な、資格・要件を備えた教員について、採用基準等を整備し、適正に運用していること。	3	専修学校設置基準等の法令を遵守し、教育課程の実施に必要な教員を配置している。採用にあたっては、専門分野における実務家教員としての実務経験や資格等を確認し、学校の目的や教育目標を達成できる体制となるよう、適正な教員配置を行っている。	実務経験を有する教員を中心に、教育課程に即した教員配置がなされている点は長所である。一方で、非常勤教員の割合が高い科目もあり、教育方針や学生状況についての情報共有をより一層図ることが課題である。 また、年2回、講師を対象とした教育の質や授業運営に関するアンケートを実施し、講師面談を通じてフィードバックを行い、授業内容や指導方法の見直しに活用している。		
小項目4-2 教員の組織編制等				3	■学校長を中心にして学科責任者・教務部・キャリアセンター等が組織的体系的に連携した運営が行われています。同時に教職員会議・学科会議で意思の共通化が出来上がっています。 ■円滑に実施されていることを評価する。 ■学生支援や教育の質向上のために、教職員間のさらなる連携強化に期待したい。
4-2-1 学校の目的に応じた教育を実施するために、適切な業務分担、責任体制のもとで分野の区分ごとに、教員の組織体制を整備していること。	3	学校の目的および教育方針に基づき、学科・分野ごとに教員組織を整備している。校長の統括の下、学科責任者や教務部を中心に役割分担と責任体制を明確にし、各種規程に基づいた連携体制により教育活動を実施している。 また、教職員会議や学科会議を定期的に開催し、教育理念や目標、課題について情報共有を行っている。分野を越えた協働を促しながら、教育活動の継続的な改善に取り組んでいる。	業務分担や責任体制が整理され、学科・分野ごとの教育活動が組織的に運営されている点は長所である。また、教職員が学校の目的や教育方針を共有し、協力して教育活動を推進する体制も整っている。一方で、常勤・非常勤教員が混在する組織構成や業務の多様化により、情報共有や意思疎通に時間的な制約が生じる場合があり、教職員間の連携をより円滑にする工夫が課題である。		
小項目4-3 教員の資質の向上				3	■教員の質の向上をはかるために、授業アンケートの実施・公開授業と研修会を通じて授業内容の改善や・授業の進め方の研究を積極的に行っています。 さらに職業実践専門学校のため、産学連携企業との協力で、専門分野の研究がさらに進化し、それを学生に還元できる協力体制も高く評価できます。 ■教員の資質向上に向けた研修や自己研鑽の機会が確保されている。 ■教員の資質向上に向けた取り組みは高く評価できる。
4-3-1 学校の授業の内容及び方法の改善を図るためのFD(Faculty Development)など組織的な取組や教員の研究活動、自己啓発等への支援を行っていること。	3	教員の資質向上を目的として研修計画を策定し、段階別研修や教務研修等を計画的に実施している。FD活動として授業アンケートや公開授業、研修会を通じて授業内容・方法の改善に組織的に取り組んでいる。	研修計画に基づく体系的な研修とFD活動により、教育改善に向けた取組が継続して行われている点は長所である。一方、非常勤教員も含めたFD参加の均一化や、研修成果の共有方法については更なる工夫が課題である。		
4-3-2 教員の専攻分野における実務に関する知識・技術、技能を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【職業実践専門課程】	3	職業実践専門課程において、教員の実務能力向上を目的として、専攻分野に関する企業等と連携した研修を実施している。業界動向や現場の知識・技術を把握する機会を設け、教育内容の充実につなげる体制を整備している。	企業等と連携した研修を通じて、教員が最新の業界知識や実務内容を学び、授業に反映できる点は長所である。一方、研修内容や参加機会について、教員間で経験に差が生じる場合があり、研修成果の共有が課題である。		
4-3-3 教員の授業及び指導力等を修得・向上するための研修を企業等と連携して、組織的に行っていること。 【職業実践専門課程】	3	職業実践専門課程において、企業等と連携し、教員の授業力や指導力の向上を目的とした研修を実施している。業界の視点を取り入れた指導方法や実践的な教育手法を学ぶ機会を設け、教育の質向上につなげている。	企業等と連携した研修を通じて、教員が実践的な指導方法を学び、授業改善に活かしている点は長所である。一方、研修内容や参加機会に教員間で差が生じる場合があり、研修成果の共有方法に課題がある。		
基準5 教育環境					
小項目5-1 教育環境の整備点検、改善等				3	■学校設置法に適合した設備・施設が備わっています。学生の在籍数が多いために手狭な感じも否めませんが、創意工夫で快適な教育環境が守られています。 以前は地下にあったプールを廃止してトレーニングルームに改修したことも学校の努力と教育活動に何等の問題がないことを示していますから評価できることです。 ■安心して学べる環境が整備されている。 ■トレーニングルームの増設やピラティスマシンの導入など、教育環境が充実する点は高く評価できる。
5-1-1 専修学校設置基準及び関連法令に基づき、教育上の必要性に対応できる施設・設備、機械器具等を備えていること。(補修、更新含む)	3	専修学校設置基準および関係法令に基づき、教育課程の実施に必要な施設・設備を整備している。教室や実習室、機械器具等は学生数や教育内容に応じて適切に配置し、授業や実習で有効に活用している。 また、施設・設備の定期点検を行い、不具合や老朽化の状況を把握した上で、必要に応じて補修・改修を実施し、教育活動に支障が生じないよう計画的な維持管理に努めている。	教育内容や教育方法に対応した施設・設備が整備され、実習を含む教育活動に有効に活用されている点は長所である。また、定期的な点検により施設・設備の状況を把握し、必要に応じた補修を行っている点も評価できる。一方で、設備の老朽化や教育内容の変化に対応した更新には時間や費用を要するため、教育上の必要性を踏まえた優先順位を明確にし、計画的な維持管理・更新を継続して進めることが課題である。		
小項目5-2 安全対策、防災組織				3	■人口が密集する葛西地区に立地していますから、地震対策・火災対策及び学生・教職員の安否確認の方法や避難誘導の訓練も、危機管理防災マニュアルを作成して徹底化を目指しています。 ■安心して学べる環境が整備されている。 ■東日本大震災の記憶が薄い世代の学生も増えている為、避難訓練を通じて防災意識を高める取り組みは非常に重要であると感じる。今後も災害発生時に適切な行動がとれるよう継続的な啓発に期待したい。
5-2-1 学校保健安全法に基づく学校安全計画を策定し、学校における安全対策を適切に行っていること。	3	学校保健安全法に基づき学校安全計画を策定している。火災や地震等の大規模災害時を想定した対応体制を整備するとともに、授業中や実習時における安全管理についても教職員が連携し、適切な対応を行っていくために危機管理マニュアルを作成している。	学校安全計画に基づき、有事への対応体制や日常の安全管理を整理し、計画的に取り組んでいる。授業を担当する講師に対しても、講師会議等を通じて防災に関する説明を行い、対応の周知を図っている。避難訓練は、災害時の職員配置に左右されず、学生が安心して行動できるよう工夫した内容で実施している。一方で、災害時の対応や安全行動に対する学生の理解や意識には差が見られるため、継続的な周知と啓発が課題である。		

基準6 教育活動の基盤と情報の公表					
小項目6-1 中期事業計画と財務基盤				3	■財務状況は学校法人滋慶学園グループの一員として盤石な体制です。財務管理も理事会・評議会で審議され公認会計士の管理の基でしっかり運営がされています。 法人の方針・学校運営の方針は中期事業計画で、収支のバランスを計算しながら的確に運営されています。 ■中長期的な視点に立った学校運営が行われている。 ■安定した財務基盤を維持している点は非常に高く評価出来る。学生が安心して学べる教育環境の支えになっていると感じる。
6-1-1 当該専修学校の中期事業計画又は設置法人の中期事業計画に、教育目的、教育目標の実現に向けた具体的な内容が位置付けられていること。	3	設置法人が策定する中期事業計画の中に、教育目的および教育目標の実現に向けた具体的な取組を位置付けている。計画には、教育内容の充実や人材育成に関する方針を明記し、学校運営の基本方針として活用している。また、中期事業計画に基づき年度事業計画を策定し、運営会議等で進捗状況を定期的に確認している。計画の実施にあたっては、担当部署や責任者を明確にするとともに、状況に応じて内容を見直し、計画の実効性を確保している。	教育目的や教育目標が中期事業計画に明確に反映され、学校運営と教育活動が計画的に進められている点は長所である。また、進捗管理や役割分担が明確で、組織的に事業が推進されている点も評価できる。一方で、中期計画の内容を教職員一人ひとりの業務や日常の教育実践により効果的に結び付けるための共有が課題である。加えて、計画期間が長期に及ぶことから、教育環境や社会状況の変化を柔軟かつ迅速に反映させる工夫が求められる。		
6-1-2 当該専修学校の教育活動を安定して遂行するために必要かつ十分な財務基盤を確立していること。 【修学支援新制度機関要件の確認】 【外国人留学生キャリア形成促進プログラム】	3	設置法人の中期事業計画に基づき、教育活動を安定して継続するための財務基盤を整備している。収支および財務状況は定期的に確認され、健全な事業運営のもとで教育環境の維持・充実が図られている。また、入学定員の8割を下回ることなく、修学支援新制度の対象校としての要件を継続して満たしており、学費収入面での大きな不安要素はない。	中期事業計画と連動した財務管理により、教育活動を安定的に実施できる基盤が確保されている点は長所である。但し、社会情勢や学生募集環境の変化による収支への影響については、慎重である姿勢は崩さない。		
小項目6-2 学校運営				3	■法人全体の中期計画にそって学校長を統括責任者として、教務部・事務部の組織体制と、教職員全体の会議を連動させて意思の疎通と前進を計画しています。 それにより学校の運営方針や教育支援のあり方が統一されていますから教員や職員は連携した動きが来ています。 ■適切なマネジメントが行われている。 ■外部セミナーを活用し、より良い学校運営に取り組んでいる点は高く評価できる。
6-2-1 学校運営の組織体制を整備し、適切な運営が行われていること。	3	校長の統括の下、教務部、事務部等の事務組織体制を整備し、業務分担と責任体制を明確にしている。教員と職員は会議体等を通じて連携し、校長による意思決定と進捗管理のもとで学校運営を行っている。	業務分担や責任体制が整理され、教職員が連携して学校運営にあたっている点は長所である。一方、業務内容の高度化・多様化に伴い、部署間の情報共有や調整に時間を要する場合があります、運営の効率化が課題である。		
6-2-2 学校運営に必要な知識・技能等を身に着け、意欲及び資質を向上させるためにSD(Staff Development)活動などの取組が行われていること。	3	学校運営や教育活動の質向上を目的として、教職員を対象とした研修を実施している。法令理解、学生対応、業務改善等に関する研修を計画的に行い、教職員の知識・技能および資質の向上を図っている。また、入職時にはこれらの研修を義務付けている。	研修を通じて、教職員が学校運営や教育支援に必要な知識を体系的に学ぶ機会が確保されている点は長所である。一方、業務の多忙さから研修参加の時間確保が難しい場合があります、研修内容の共有方法が課題である。		
小項目6-3 学校評価の実質と改善活動				3	■学校評価と改善については、学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会を定期的を実施して、多くの意見や助言を真摯に受け止めています。また地域社会・関連業界団体からの意見も取り入れて内容を整理して、学校運営や教育課程の改善に反映していることは更なる期待が持てますから大きな評価だと思います。 ■本会議を通して、業界から広く意見を聞き、公開していることは良いことだと思う。 ■自己点検・評価を継続的に実施し、その結果を学校運営や教育改善に活用していることを評価する。 ■今回の会議をはじめ、外部からの意見を積極的に取り入れ、学校運営や教育の改善に活かそうとする姿勢は高く評価できる。開かれた学校運営に取り組む姿勢に好感が持てる。
6-3-1 学校関係者評価委員会、教育課程編成委員会等外部からの意見を反映するなど、関連企業等団体、地域社会等からの意見を当該専修学校の運営やその改善・向上において活用していること。 特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回以上開催していること。【職業実践専門課程】	3	学校関係者評価委員会および教育課程編成委員会を定期的に開催し、関連企業や地域社会等の外部関係者から意見を聴取している。 特に職業実践専門課程においては、教育課程編成委員会を年2回開催し、教育課程の編成・実施や学校運営に関する課題や改善点について協議を行い、その結果を教育内容や運営改善に活用している。	外部有識者や企業関係者を交えた会議を継続的に開催し、学校運営や教育課程の改善に意見を反映できている点は長所である。 委員会において示された多様な意見や助言について、整理や優先順位付けを行い、教職員全体への確かつ迅速に共有する仕組みについては、さらなる工夫の余地がある。		
6-3-2 学校評価を実施し結果及び改善状況についての情報を公表していること。	3	自己点検・評価を実施し、その結果を評価報告書として取りまとめている。評価結果は改善に活用し、対応状況を含めてホームページ等で公表している。	評価結果を報告書として整理し、公表している点は長所である。一方、改善内容と成果の関係が分かりにくい場合があります、更なる整理が課題である。		
6-3-3 学校評価の結果に基づく改善への取組を組織的かつ継続的にしていること。	3	自己点検・評価結果を踏まえ、運営会議等において改善内容を検討・決定している。決定事項は関係部署で共有し、学校改善に向けた取組を継続して実施している。	評価結果に基づく改善の検討・意思決定を行う体制が整備されている点は長所である。改善状況の進捗管理をより分かりやすく整理することが課題である。		

小項目6-4 社会からの理解と情報の公表				3	■学校の情報公開については、財務状況から教育情報まで幅広くホームページで公開しています。さらに自己採点や学修成果の情報も公開して、学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会の評価も公開しつつ検証と改善をする姿勢は高く評価すべきことです。 この公開が地域や社会全体からの信頼と信用の源泉であると思います。更なる飛躍を期待します。 ■卒業生や業界関係者、地域社会など意見を取り入れながら、より良い発信(情報)を進めてほしい。 ■教育情報を適切に公開し、透明性の高い学校運営を実践している点は高く評価できる。
6-4-1 当該専修学校の教育活動、学修成果、学校運営等の状況に関する情報を積極的に公表していること。	3	自己点検・評価結果をはじめ、教育活動や学修成果等の情報をホームページ等で公表し、社会に対する説明責任を果たすよう継続的に取り組んでいる。	公表が求められる教育情報を適切に公開し、透明性の確保に努めている点は長所であるが、情報量が多く、内容の整理や分かりやすさが課題である。		
6-4-2 教育目的・目標の達成状況や活動状況について関連する教育機関、産業界等をはじめ、社会全体からの理解を得るよう取り組んでいること	3	教育内容や教育成果について業界等へ積極的に情報発信を行い、連携活動や意見交換を通じて、教育の取組に対する社会的理解の促進に努めている。 教育課程編成委員会や連携実習等を通じて、高等学校、産業界、自治体からの意見を継続的に聴取し、実践的な職業教育の改善・向上に活用している。	業界との連携を通じて教育内容を発信し、理解を得る取組が行われている点は長所である。教育成果の分かりやすい提示方法について工夫の余地がある。外部関係者の意見を教育課程の検証や改善に反映している点は長所であるが、意見の整理や全体への共有については、さらなる工夫が課題である。		